

# 平成22年度厚生年金基金の予算と実績

1 平成21年度決算見込、平成22年度事業計画及び予算（年金経理、業務経理）について

年金経理の決算見込については、収入総額は8億2,000万円、支出総額は3億1,100万円となります。年度末の資産は4億6,200万円（未払金5,500万円含む）、数理債務は1億9,800万円、最低責任準備金は3億3,100万円となります。年初運用見込は8.84%で3億8,900万円の運用収益となる計画でスタートしました。期中では円高の影響、ドバイショックと世界金融不安もありましたが、結果として日本生命の年度末の読み13.02%（特別勘定）、0.75%（一般勘定）、第一生命の年度末の読み13.20%（特別勘定）、0.75%（一般勘定）、三菱UFJ信託の年度末の読み12.90%（年金信託）、全体としては10.87%で4億5,300万円の運用収益となります。平成21年度の最低責任準備金の運用に関するコロナシ利率は4月から12月までは△3.54%、翌年1月から3月までは△6.83%となっていました。

この数値は平成21年度末の市場見通しを表①の通りとしています。業務経理の決算見込については、収入総額は11億9,180千円、支出総額は9,724千円となり、2,194千円の当年度剰余金となります。その結果、年度末の繰越剰余金は70,148千円となります。

年金経理の予算については、収入総額は5億6,900万円、支出総額は4億4,400万円となります。年度末の資産は48億7,500万円（未払金5,400万円含む）、数理債務は2億2,500万円、最低責任準備金は3億5,700万円となります。各受託機関の運用見込に用いた利回りは、日本生命の年度末の読み8.10%（特別勘定）、0.75%（一般勘定）とし、第一生命の年度末の読み3.40%（特別勘定）、0.75%（一般勘定）とし、三菱UFJ信託の年度末の読み4.60%（年金信託）としました。全体としては4.69%となり、その結果2億2,000万円の運用収益となります。

① 代行保険料率算定届出書について、厚生労働大臣宛に提出義務のあった届出書は1月14日に送付致しました。結果として、当基金には交付金の交付もなく、また代行保険料率の算定も必要のない結果でした。

② 厚生年金基金代行部分の返上について、平成4年に基金を設立しましたが、加入者の減少・市場の景気悪化等により、正常に運用していくのが困難になってきました。今後会計基準を変更します。基金があると退職給付債務が非常に大きくなり、企業への多大な影響を及ぼすことが避けられない。などの理由により総監事会社である日本生命保険相互会社さんと相談の上、話を進めております。2月19日には近畿厚生局に伺い話を聞いて参りました。第一段階として「将来部分のみ返上」、第二段階として「過去分の返上」となり2年から2年半の期限が見込まれています。これから1、事業主の同意。2、加入員の同意。3、受給者への説明。4、労働組合の同意と話しを進めて行くにあたり、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。返上後の給付設計等につきましては、これから検討の上、進めて行く予定ですのでご理解をお願い致します。

この数値は平成22年度末の市場見通しを表②の通りとしています。業務経理の予算については、収入総額は12,056千円、支出総額は10,091千円となり、1,965千円の当年度剰余金となります。その結果、年度末の繰越剰余金は72,113千円となります。

【表①】

	日本生命	第一生命	三菱UFJ信託
新発10年国債	1.30%	1.35%	1.30%
日経平均	10,500円	10,500円	10,000円
米国10年債	3.70%	4.00%	3.40%
NYダウ	10,300 \$	10,250 \$	10,400 \$
為替	90円	90円	87円

① 「最低責任準備金」関係科目の変更に伴う財務及び会計規程の変更について、この規程変更は平成22年1月15日付で「代行保険料率の算定に関する取扱いについて」等の一部改正について（年発第0115第1号）が発出され、厚生年金基金において使用する勘定科目が一部変更されたことに伴い、変更するものです。

② 「資産評価調整加算額」関係科目の変更に伴う財務及び会計規程の変更について、この規程の変更は、平成22年1月15日付で「代行保険料率の算定に関する取扱いについて」等の一部改正について（年発第0115第1号）が発出され、厚生年金基金において使用する勘定科目が一部変更されたことに伴い、変更するものです。

③ 「過剰積立金残高」関係科目の削除に伴う財務及び会計規程の変更について、この規程変更は、平成21年7月10日付で「厚生年金基金の財政運営について」の一部改正について（年発0710第3号）が発出され、厚生年金基金において使用する勘定科目が一部削除されたことに伴い、変更するものです。

④ 「移行調整金残高」関係科目の削除

【表②】

	日本生命	第一生命	三菱UFJ信託
新発10年国債	1.50%	1.60%	1.40%
日経平均	11,600円	11,000円	10,600円
米国10年債	3.80%	4.00%	3.80%
NYダウ	10,800 \$	11,000 \$	10,500 \$
為替	95円	87.5円	91円

⑤ 非継続基準の財政検証に係る予定利回りの設定方法の変更に伴う財務運営規程の変更について、この規程変更は、平成22年1月15日付で「代行保険料率の算定に関する取扱いについて」等の一部改正について（年発0115第1号）が発出され、回復に伴う財務及び会計規程の変更について、この規程変更は、平成21年7月10日付で「厚生年金基金の財政運営について」の一部改正について（年発0710第3号）が発出され、厚生年金基金において使用する勘定科目が一部削除されたことに伴い、変更するものです。

● 予定損益計算書 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日 (千円) ● 予定貸借対照表 平成23年3月31日現在 (千円)

費用勘定		収益勘定	
科目	予算額	科目	予算額
<b>1. 経常収支</b>			
給付金給付費 (年金給付費)	184,599 (26,759)	掛金等収入	346,939
(一時金給付費)	(157,840)	政府負担金	882
移換金	97,275	運用収益	217,855
抛中金	154		
運用報酬等	18,714		
業務委託費	8,511		
指定年金数理人費	725		
運用損失	0		
計	309,978	計	565,676
<b>2. 特別収支</b>			
特別支出	0	特別収入	0
繰入金	0	受入金	0
計	0	計	0
<b>3. 数理的評価の変動</b>			
給付債務増加額	311,412	給付債務減少額	0
(数理債務増加額)	(51,144)	(数理債務減少額)	(0)
(最低責任準備金(継続基準)増加額)	(260,268)	(最低責任準備金(継続基準)減少額)	(0)
計	311,412	計	0
<b>4. 基本金及び総合計</b>			
当年度剰余金	0	当年度不足金	55,714
計	0	計	55,714
総合計	621,390	総合計	621,390

資産勘定		負債勘定	
科目	予算額	科目	予算額
<b>1. 純資産</b>			
流動資産	57,971	流動負債	1,813
(預金)	(28,912)	(未払運用報酬等)	(1,813)
(未収掛金)	(28,912)	(政府負担金(返納金未払金))	(0)
(未収政府負担金)	(147)	支払備金	50,038
固定資産	4,874,100	(未払給付費)	(17,613)
(信託資産)	(830,543)	(未払移換金)	(32,425)
(保険資産)	(4,043,557)		
計	4,932,071	計	51,851
<b>2. 資産及び負債の数理的評価</b>			
		給付債務	5,601,352
		(数理債務)	(2,024,067)
		(最低責任準備金(継続基準))	(3,577,285)
計		計	5,601,352
<b>3. 基本金及び総合計</b>			
基本金	721,132	基本金	0
(繰越不足金)	(665,418)	(別途積立金)	(0)
(当年度不足金)	(55,714)	(当年度剰余金)	(0)
計	721,132	計	0
総合計	5,653,203	総合計	5,653,203

## 予算基礎数値

● 加入員に関する事項 基本部分 2,227人 (男性370人、女性1,857人) 加算部分 1,575人 (男性346人、女性1,229人)	● 年金及び一時金給付に関する事項 年金 74人 26,759千円 脱退一時金 101人 35,073千円 選択一時金 53人 122,766千円	● 中途脱退者に関する事項 中途脱退者移換金 359人 97,275千円 ● 予定利率 5.5% ● 時価ベース利回り 4.69% ● 基本標準掛金率 2.9% ● 免除保険料率 2.9% ● 加算標準掛金率 3.9%
● 平均給与に関する事項 基本部分 248,874円 (男性378,662円、女性223,014円) 加算部分 149,898円 (男性245,087円、女性123,100円) 総標準賞与額 1,541,191千円		